北信教育事務所だより

第６号

平成 30 年 12 月 19 日（水）

～子どもに発し、子どもに還る　学校づくり　授業づくり～

もくじ

- 各校の学力向上・授業改善の取組の紹介　…１
- 「深い学び」って どういうこと？ Part１（総合的な学習の時間）　…２
- 第３回日々の授業改善研修の様子　…２
- 第２回わくわくスポーツセミナー実施報告　…３
- キラッ☆と笑顔わくわく講座の活動の様子　…４
- キラッ☆と輝く子どもの先生の笑顔　…４

北信地区の風景

地獄谷温泉（山ノ内町）
平成 30 年 12 月

語らいの中から見いだされた「つなぐ」，「表現する」！
～各校の学力向上・授業改善の取組～

“付箋”を貼って下の学年へつなぐ！　NRT の結果分析をもとしたN小学校の工夫した取組

夏休みに「ＮＲＴの分析・活用」に関わる校内研修会を行いました。担任の先生は、学級の結果から成果と課題を明らかにし、前学年の教科書に付箋を貼ることで、下の学年の先生が授業するときに指導のポイントが明確になるようにしています。

指導改善のサイクルづくり

① 前の学年の教科書をあずかる

② **課題があった問題**について、教科書の該当ページに**ピンクの付箋**を貼る

③ **成果があった問題**について、教科書の該当ページに**青色の付箋**を貼る

④ 指導の工夫や反省をメモする（できるところで）

⑤ 教科書を返す

“表現する”活動を位置付ける！　全国学調の S-P 表をもとにしたH小学校の表現活動を意識した取組

全国学力・学習状況調査（算数）の結果から見えた課題

- 円周率の問題では、円周率の**意味を忘れて**いたり、円周の長さや円の面積を求める**公式がごちゃごちゃ**したりしている。
- 「数量関係」で、いくつかの条件に合わせて説明する問題では、全部の条件を挙げられなかったり、**言葉で説明できなかったりする**子どもたちが多かった。
- 「単位量あたりの大きさ」や「割合」の問題では、**何をもとにするかはっきりしないまま**計算を行っている。

自分の考えを表現する力が大切だ！

- 自分の考えを式に書くだけでなく、**言葉を使って**表そう
- **意味を考えながら**立式する活動の場をつくろう
- 読み聞かせをし，その振り返りとして「誰が，何をしたお話か」を**アウトプット**する場をつくろう
- **大切な言葉を使って要旨をまとめる**活動をグループで行おう
- 「一つ目は」、「まず」、「次に」、「最後に」といった**説明の仕方**を意識して活用するように促そう
- 操作活動や立式の**考え方を友達に説明する場**を設けよう

他教科にも通じることがありそうだなあ・・・。

平成30年度重点目標・キーワード

学校教育課
“語らい　つなぐ”

生涯学習課
“学びをつなげて　人づくり　地域づくり”

冬休みまで残りあとわずかとなりました。実りの多い２学期になりましたか？

３学期に向けて、子どもたちの笑顔のために、ともに語らいましょう。事務所だよりについて、ご意見・ご感想・ご要望等ありましたら、お寄せ下さい。

（メール hokushin-s@pref.nagano.lg.jp まで）

「深い学び」ってどういうこと？Part1
～総合的な学習の時間編～

子どもの主体的や対話的な姿は
思い浮かぶけれど、
深い学びの姿と言われても…

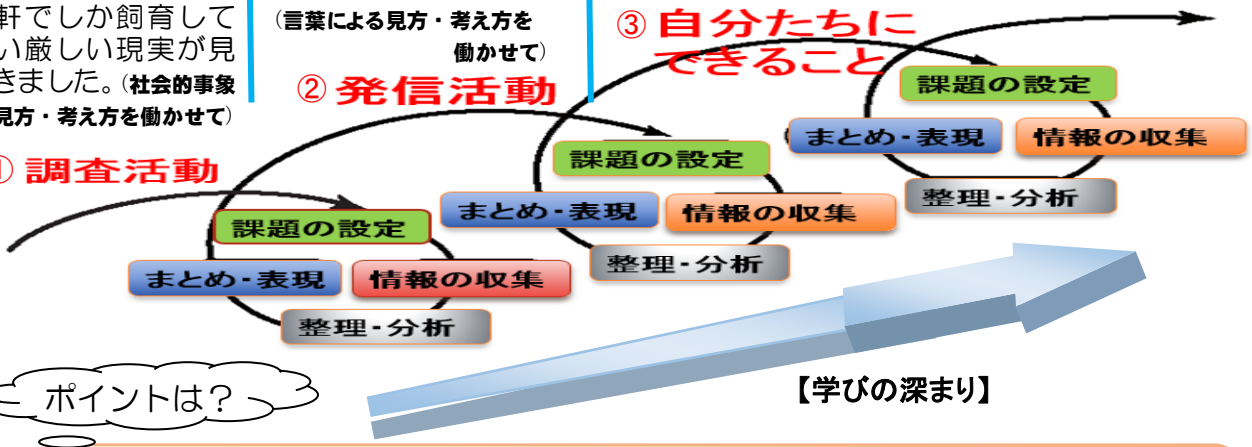
【つなげよう わたしたちのみゆきポーク】

～T 小学校５年生の実践より～

①地域のブランド豚について調べていくと、地域の自慢であるはずが年々生産者が減り、わずか２軒でしか飼育していない厳しい現実が見えてきました。**（社会的事象による見方・考え方を働かせて）**

②そこで子どもたちは、消費や生産の拡大につなげようと、みゆきポークのよさを発信しました。**（言葉による見方・考え方を働かせて）**

③さらに，自分たちも豚の世話をしてみないと本当に豚のことを知ることができないと動き出したのです。**（探究的な見方・考え方を働かせて）**



ポイントは？

- ①②③の連続した学習過程による探究のサイクルの質的向上→**深い学びの実現**。
- 友、専門家、地域の方など異なる多様な他者との関わりや話し合い→事象に対する認識の深まり→**深い学びの具体**。
- 実社会、実生活で活用できる多様な資質・能力が育まれた姿→**深い学びの姿**。

第３回日々の授業改善研修（平成 30 年 11 月 26 日）

２学期に実践した授業を発表し、意見交換をしました。まねしてみたいと思ったこと、自分ならこうやろうと思ったことなどを語り合う中で、成果と課題が明確になりました。

特別支援教育

販売会を行いました。自分からお客様に積極的に話しかける姿が増えました。**さらに適切な振る舞い**が増えていくといいなあと思うのですが…

具体的な場で人とかかわる経験は大切ですね。期待する姿を、**子どもたちが自分の目で見える**ようにしたらどうだろう。

自分の姿をモニタリングできれば、子どもたちは「こうやって話しかけたい」「こうやって接したい」といった願いをもちそうですね。

学習の中で視覚化することを大事にしてきたけれど、**「自分の姿を自分の目で見る」**といった支援は思いつかなかったな。具体的なアドバイスをもらったので、ほかの授業でも、早速やってみたいなあと思いました。

発表や意見交換を通して、互いの実践に学ぶだけでなく、見えてきた課題を「自分たちで解決しよう」という雰囲気が生まれてきました。悩んだり、迷ったりしながら授業づくりをしてきた先生方も、語らう中で、仲間と共に授業づくりをする楽しさを感じることのできた研修会になりました。

〈参加者の感想より〉

第2回わくわくスポーツセミナー

10月27日(土)、長野県障がい者福祉センター　サンアップルにおいて、第２回わくわくスポーツセミナー　指導者講習会を開催しました。幼稚園・保育園・小学校・中学校・特別支援学校関係者、地域のスポーツ指導者、放課後子ども教室・児童クラブ等関係者、一般の方等、約６０名が参加し、講演会、３つの分科会を通して、スポーツのユニバーサル化について学びました。

講演会　「誰もが楽しめるスポーツ！
～スポーツのユニバーサル化を目指して～」

第１分科会　誰もが実践できる
運動プログラム

第２分科会　特別な支援が必要な子どもへの
運動・遊び指導

第３分科会　トップアスリートから学ぶ
パラスポーツの魅力と指導法

【参加者の感想】

- 子ども達が求める「楽しい」を引き出すために、ルールにとらわれすぎない自由な発想が、指導者には必要だと感じました。学校体育だとルールにとらわれがちなので、「楽しさ」を引き出すために何が必要か考えていきたいです。
- 実技で行ったことを、幼稚園の現場で子ども達と一緒にできたら、とても楽しめると感じました。また、子ども達へ伝える際、工夫して伝えていきたいと思います。
- 新聞紙一枚で、様々な遊び方があること、用具、道具を使って、いろいろな遊びを作り出せることを学びました。とても、楽しかったです。
- ボッチャは、子どもや高齢者の方、障がいのある方と是非、一緒にやってみたいと思いました。学校でも是非、やってみたいと思います。

リズムを取り戻すきっかけに

～ 中間教室や相談室に通う子どもたちに、キラッ☆と笑顔を ～

事前に打合せを行い、ご希望に応じて調理や工作運動遊びなどを用意して伺います

ニュースポーツでボッチャもできるようになりました

体を思い切り動かし新しいスポーツを体験できるこの講座はとてもありがたいです。

（中間教室担当の先生）

中学２年生の男の子は、朝起きられずにいましたが、先日はわくわく講座があるので頑張っていつもより早めに来ることができ、その後はリズムを取り戻し、遅刻の回数も少なくなりました。生徒にとって一つの出来事が大きなきっかけになると思います。

（相談室担当の先生）

今後のキラッ☆と笑顔わくわく講座開講可能日はメールで各校に配信済みです。
ご希望に応じて内容や日程は対応可能です。お申し込みは FAX(026-234-9557)でどうぞ!!

「キラッ☆と輝く 子どもの 先生の 笑顔」 vol.6

学校訪問で出会った「笑顔」をコラム風に紹介します

N小学校　三年　国語科

「気持ちがつたわるハガキを書こう『ありがとう』を伝えよう」

京都にいる祖母にハガキを書くことにしたYくん。U先生の「気持ちを書くと相手に伝わる」という言葉に、「はず（恥ずかし）くね、それ」と言っていたが…

「バー（祖母）、あついけど元気。いつもおもちゃをかってくれてありがとう。いつもバーの家行ったとき、いつもめっちゃおいしいごはんをつくってくれてありがとう。だいすきやで」◆U先生は、子どもが「だれに」を意識しながら伝えたい気持ちを言葉にする姿を単元のゴールに設定した◆「今日のポイント」を確認する場面。U先生は学習カードのマス目を指し「書くことが多すぎないようにするにはどうすればいいかな」と尋ね、子どもたちと「結論から書く」ことを共有する。さらに、「①どんな『ありがとう』から書く②気持ちを書く③ていねいに書く（字・言葉づかい）」と板書にまとめ、気持ちを書くと相手に伝わることを子どもたちと共有した。するとYくんは「はずくね、それ」とつぶやいた◆学習カードに本文を書く場面。Yくんは「今日のポイント」を見ながら書いた。その後、本文をしばらく見つめると、言葉をけずって、なんとか六文字分詰めた。そして最後に「だいすきやで」と書き、満足そうに笑った。おもちゃを買ってくれるバー。めっちゃおいしいご飯を作ってくれるバー。本文を書きながらYくんに浮かんだ祖母との思い出。「いつも」出会う祖母の笑顔がそこにはあったのだろう。Yくんが「はずくね」と照れていた祖母への気持ちは、伝えずにいられない気持ちへと高まる。そして、京都の祖母に合わせた関西の言葉づかい「だいすきやで」が生まれた◆グループ内の本文検討の際、アドバイスにつなげるため、友だちは「どんなごはんがおいしいの」等の質問をした。しかし、Yくんは答えない。さらにU先生が「友だちからのアドバイスをもとに直してみましょう」と言うと、小さな声で「やだ」と答えた。一番伝えたい六文字「だいすきやで」を入れることができた文章を大事に守りたいというYくんの思いがあった◆黙々と文章を直す子どもたちの中で、鉛筆を動かさないYくんに気づいたU先生。Yくんの本文を読み「Yくんのこれ、いいんだよ。言葉づかいがさ」と、「バー」を意識した温かな言葉づかいを認めた。そして、U先生は発表を促した。照れくさそうに首を横に振るYくん。U先生は「代わりに先生が…」と言いかけたが、「これはさ、Yくんに読んでほしい。また今度だな」とつぶやき、Yくんを笑顔で見つめた。「はずい」と思ったYくんの伝えたい気持ちを言葉にしていく姿は、U先生の温かいまなざしに包まれて育っていく。

【このエピソードから何を感じましたか？】

【このエピソードから大事に考えたいこと】

○エピソードを思い浮かべやすい身近な相手を対象とさせたことで，子どもの豊かな表現を引き出した教師。

○相手との関係を思い起こし，自分の気持ちが最もよく伝わるように納得しながら言葉を綴っていく子ども。